



大学生のアイデアを取り入れた新たな事業戦略などについて3社が発表した成果報告会

県は15日、県内企業と学生が共同で新ビジネスや新商品の企画に取り組み「あおもり共創ビジネスプログラム」の成果報告会を八戸市美術館で開いた。県南の企業3社が、大学生の柔軟な発想を取り入れて考案した新事業の内容と、立案のプロセスを紹介した。

同プログラムは本年度、同市

八戸

の八戸学院地域連携研究センターが運営を受託し、小坂工務店（三沢市）、環境緑花工業（八戸市）、マルカネ（同）が参加した。3社はそれぞれ八戸学院大生とチームを結成し、昨年12月から今年2月にかけて複数回ワークショップを開催。会社の現状分析をしながら、事業のコンセプトや商品のターゲット、

県3社成果報告 プログラム 新事業に 学生の発想

PR方法などを議論した。

小坂工務店は「EV（電気自動車）カーシェアリングサービスの普及促進戦略」をテーマに、スマートフォン決済の導入、交流サイト（SNS）でPR動画を配信するといった新たな事業展開について発表した。水産加工会社のマルカネは、不漁が続く国産サバの代替としてノルウェー産サバの加工品をPRするため、学生の提案でショート動画を制作するなどの取り組みを説明した。

各社の担当者からは「社員だけでは出てこないアイデアが学生から多く出て、参考になった」といった感想が聞かれた。県は今後、同プログラムを県内他地域の企業にも紹介し、活用してもらう方針。

（千葉真由美）